

1998 秋季総合分科会 市民講演会 報告

第二十回市民講演会が、昨年9月に開催された大阪大学での秋季総合分科会の最終日10月3日に、豊中第一ビル7階ゆやホールにて開催されました。主催は日本数学会、後援は大阪大学および豊中市・大阪市・吹田市・箕面市・池田市の各教育委員会です。

既にお伝えしたように、内容は

1. 「ゲーム感覚の数学・数学感覚のゲーム」

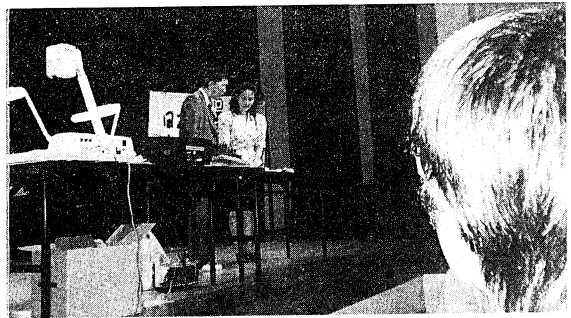
講師 川中宣明氏(大阪大学理学研究科)

2. 「暗号の中の数学」

講師 澤田秀樹氏(山形大学理学部)

で、約150名の参加がありました。

川中氏の話は有限ゲームの勝ち負けの数学的構造に関するもので、囲碁、将棋、チェス、みかんなどを使い、また参加者を壇上に呼んで和気あいあいとしたムードで、聴衆を引き込みました。また澤田氏の話は公開鍵暗号の数学的構造の解説で、ご自身の名前の、ほぼ1ページにわたる具体的な暗号コードをOHPで見せるなど、工夫を凝らしたものでした。参加者は



数学研究の雰囲気を感じ取ったのではないのでしょうか。澤田氏の講演内容は本誌4-38 p. に掲載されていますのでご参照下さい。また川中氏の内容は次号以降に掲載される予定です。

大阪大学の広報活動は、主に高校生を対象としたものでしたが、土曜日の午後早い時間に設定したことが原因で、成人がほとんどでした。聴衆が成人である場合と高校生あ



川中氏(左側)と 澤田氏

るいは中学生である場合とでは、興味の対象と予備知識に差があり、話題によっては講師の方々の準備が異なる場合もあります。どのような聴衆を想定して講演会を設定するか、また広報を行うかは、広報委員会にとって今後の課題であると考えております。

最後に会場の選択、設定からポスター製作ほか広報活動のほとんどを大阪大学にご負担頂きました。特に白井三平、厚地淳、内田素夫の三氏には重ねて御礼申し上げます。

広報委員長 矢野公一